

中学校・道徳の内容項目の解説

弱さの克服・生きる喜び

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。	弱さの克服・ 生きる喜び

●解説

全体的な理解	ありのままの人間は、決して完全なものではない。人間は、総体として弱さを持っているが、それを乗り越え次に向かって行くところに素晴らしさがある。ときとして様々な誘惑に負け、易きに流れること <small>かたやす</small> もあるが、だれもがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になりうるのである。また、ここで言う人間としての生きる喜びとは、自己満足ではなく、人からほめられたり、認められたりするという喜び、人間としての誇りや深い人間愛、崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びである。
発達的な観点	中学生の時期は、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもっていることを理解できるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてないでいるだけに、劣等感にさいなまれたり、人をねたみ、恨み、うらやましく思ったりすることもある。また、一方では、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心もある。したがって、自分を含め、人はだれでも人間らしいよさをもっていることを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、だれに対してもその人間としてのよさを見いだしていく態度を育てることが大切である。
指導の着眼点	指導に当たっては、まず自分だけが弱いのではないということ、人間がもつ強さや気高さを十分に理解できるようにすることが大切である。また、いたずらに、弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方、誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにすることが大切である。このような指導を通して、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことにつながる。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	畏敬の念
中学年	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	畏敬の念
高学年	(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	畏敬の念